



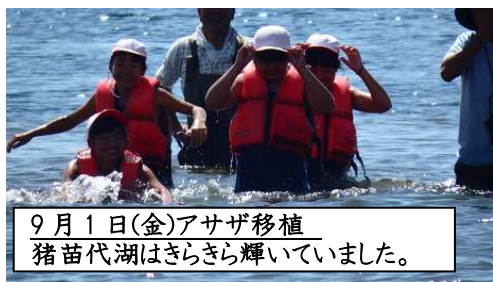
翁島小学校だより

第17号 H29. 12. 21 発行 文責：校長 星 善樹

◎ 2学期(81日間)が終了しました。～ ご支援ありがとうございました ～

2学期81日間が、本日終了いたしました。夏から秋、冬と3つの季節をまたぐ2学期。大きな成果を上げて終了できました。本日までのご支援・ご協力誠にありがとうございました。

☆☆☆ 写真で振り返る2学期 (掲載しきれませんが…) ☆☆☆



9月1日(金)アサザ移植
猪苗代湖はきらきら輝いていました。



9月4日(月)ヒシ回収 みんなで力を合
わせ1トンのヒシを回収しました。



9月6日(水)校内水泳記録会
水は冷たかったけど、全力で頑
張り自己ベストが沢山でした。



9月11日(月)ファミリーシアター「カラス
大明神」本物の演劇を鑑賞しました。



9月13日(水)野口体育祭
全力で頑張りました。



9月20日(水)湖心観察会 白鳥丸に
乗って景勝地「赤崎」も見てきました。



9月28, 29日(木、金)3年生宿
泊学習。(磐梯青少年交流の家)



9月29日(金)高郷カイギュランド見学
化石発掘も体験してきました。



10月4日(水)きな粉作り 畑でとれ
た大豆できな粉を作りました。白玉
にかけて食べました。おいしかった。



10月5日(木)野口音楽祭。美しい歌声
とリコーダーの音色が会場に響きました。



10月18日(水)校内持久走記録会
新記録3つ、自己ベスト記録続出でした。



10月28日(土)翁島フェスティバル
学習の成果を一生懸命発表しまし
た。【全校合唱の様子】



11月7日(火)サツマイモ収穫 美味い
いただいた後は、ツルでリースも作りま
した。



11月9日(木)野口博士誕生祭 きれ
いな歌声で式を盛り上げました。叶暖さ
んは、立派に作文を発表しました。



11月17日(木)猪苗代湖子ども
交流会 郡山市公会堂で水環境
学習の研究成果を発表してきま
した。

◎ 正義(せいぎ)の味方 「アンパンマン」から学ぶこと

～ 来年も正義の心に満ち溢れた翁島小になることを願って ～

来年も、「正義の心」に満ち溢れた翁島小学校になることを願って「アンパンマン」の作者である「やなせ たかし」さんの言葉や思いを紹介します。やなせさんは、自身の戦争体験を通して、正義について考え「アンパンマン」の話を作りました。

[illegible]

本当の正義というのは、相手にミサイルをぶち込むようなことではありません。そこに飢えて苦しんでいる人がいれば、その人を助ける。それが本当の正義の味方なんです。たとえば山で遭難している人、あるいは地震で動けなくなっている人を助けるには、どうしたらいいか。100万円あげたって、流行の服をあげたって、救うことはできません。ほしいのは、一切れのパンなんです。だから、一切れのパンをあげる人が正義の味方なんだ、そう思ったんです。パンの中でも、子どもの頃好きだったアンパンがいいと思って、『あんぱんまん』をつくりました。はじめは、主人公はアンパン自身ではなくて、アンパンを配るおじさんだったんですよ。でもやっぱりアンパン自身が飛んだ方がおもしろいということで、アンパンの顔をした「あんぱんまん」が生まれました。

「傷つくことなしに正義は行えない」そんな思いから、「あんぱんまん」は自分の顔を食べさせることで、ひもじい人を助けます。アンパンマンをご覧になっている方はよくご存じかと思いますが、アンパンマンはとても弱いんです。雨にちょっと濡れてもだめ、顔がちょっと変形してもだめ、すぐジャムおじさんに知らせて直してもらわないと戦えない。ヒーローといっても我々と同じで、弱いんです。でも、いざというときはやるわけですよ。



アンパンマンと戦う「バイキンマン」は、「最高傑作」といってよいキャラクターだと思っています。「アンパンチ」でやっつけるシーンについては、「暴力で解決するのはよくない」という人もいますが、相手はバイキンマン、つまりばい菌です。風邪をひくと、ウイルスにやられますよね。そういうとき、ウイルスがかわいいそうだからやっつけないというわけにはいきません。風邪薬を飲んだりうがいをしたりして、ウイルスをやっつけないといけない。でもそれでウイルスは死んでしまったかというところでもなくて、しばらくするとまた風邪をひいたりしますよね。つまり、我々は絶えず戦いを繰り返しているんです。そしてその中で、免疫力をつけて強くなっていく。ばい菌のまったくない無菌室で育ったとしたら、その子どもは無菌室から出たとたん死んでしまうかもしれません。アンパンマンのお話の中で、バイキンマンはアンパンチでやっつけられるけれど、翌週また平気な顔をして出てきます。両者は絶えず戦っていて、だからこそ活力が生まれるんです。患者の象徴であるバイキンマンは、誰の心の中にも存在する「悪い心」といって良いものです。しかし、悪いからといって決して無くなるものではありません。「良い心」であるアンパンマンと、「悪い心」であるバイキンマンは、つねに共存しながら「バランス」を保っているのです。「悪者はやっつけば良い」という単純な事ではないと私は、思うのです。

【アンパンマンが許さないこと】

アンパンマンは、「バイキンマンは悪い奴だ！許さないぞ！」とは言わない。アンパンマンが言うのは、「あ！バイキンマン！またイタズラしたな！許さないぞ！」だ。悪いのはバイキンマンという「人格」ではなく、イタズラという「行為」であるということ。罪を憎んで、人を憎まずですね。人格を否定するのではなく、行為に対して注意する。これは子育てにも通じる事だと思います。アンパンマンとバイキンマンの関係を通して、作者のやなせさんが、どうしても子供たちへ伝えたかったメッセージなのではないでしょうか。

